

今年で第18回！新世代の才能が花開く“若手映像クリエイターの登竜門”

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2021

ラインナップ発表！

9/25(土)～10/3(日) オンライン配信で開催！

報道関係者各位

平素より大変お世話になっております。

2004年に埼玉県川口市で始まった「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭」は、国際コンペティション、国内コンペティション（長編部門、短編部門）で構成されるコンペティション上映を中心にした“若手映像クリエイターの登竜門”として毎年開催を重ねてきました。これまでに、『孤狼の血 LEVEL 2』の白石和彌監督、『浅田家！』の中野量太監督、『カメラを止めるな！』の上田慎一郎監督、『岬の兄妹』の片山慎三監督など、トップランナーとして日本映画界をけん引する監督や、新作を心待ちにされる監督たちを多数輩出しています。



第18回となる本年は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から安心・安全を第一に考え、9月25日（土）～10月3日（日）の9日間、動画配信サイト「シネマディスカバリーズ」でのオンライン配信で開催します。

本日9月1日（水）、オンラインにて記者発表を行い、国際コンペティション、国内コンペティションのノミネート作品全24作品のラインナップを発表しました。詳細は次ページ以降の通りです。

昨年来、世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、映画をはじめとする文化の存続の重要性が叫ばれる中、本映画祭は、映画の未来を担う新たな才能の発掘に引き続き取り組んで参ります。

ぜひ貴媒体にて本情報をご紹介下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

動画配信サイト「シネマディスカバリーズ」でコンペティション部門全24作品を配信！

配信期間	2021年9月25日（土） 10:00 ～ 10月3日（日） 23:00
視聴環境	WEBブラウザ（PC、タブレット、スマートフォン等）
視聴料金	① 単品購入 国際コンペティション、国内コンペティション（長編部門） 1作品300円（税込） 国内コンペティション（短編部門） 1作品100円（税込）
	② SKIPシティ映画祭見放題プラン 1,480円（税込）
決済方法	各種クレジットカード
視聴の手順	① シネマディスカバリーズでの会員登録（無料） ② シネマディスカバリーズ公式サイト内 特設ページより作品の選択 ③ 視聴プランの選択 ④ ご視聴



「シネマディスカバリーズ × SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2021」特設サイト

<https://cinemadiscoveries.co.jp/pub/skipcity-dcf2021>

<シネマディスカバリーズとは>

2020年4月より開始したキュレーション映画配信サービス。インディペンデント映画をメインにミニシアター系映画を取り扱いながら、作り手にスポットライトを当てたコンテンツを豊富に揃えている。URL：<https://cinemadiscoveries.co.jp/>

コンペティション3部門には104の国・地域から長編・短編合計1,084本がエントリー!!

世界の映画を厳選する映画祭の華!

国際コンペティション

過去最多の応募数から厳選10作品をノミネート すべて日本初上映!



『ケンザの瞳』
Buladó
監督:エチエ・ジャンガ
オランダ、キュラソー
©Gregg Telussa



『シネマ・オブ・スリープ』
Cinema of Sleep
監督:ジェフリー・セント・ジュールズ
カナダ
©Inferno Pictures



『宴の日』
Festival | 잔치날
監督:キム・ロッキョン
韓国
©2020 Storyteller Pictures & Kyeom Film All rights reserved



『国境を越えてキスをして!』
Kiss Me Before It Blows Up
監督:シレル・ペレグ
ドイツ
©Fireglory Pictures GmbH



『ルッツ』
Luzzu
監督:アレックス・カミレリ
マルタ
©Léo Lefèvre



『鬼が笑う』
Make the Devil Laugh
監督:三野 龍一
日本
©2021 ALPHA Entertainment LLP 映画「鬼が笑う」



『ミトラ』
Mitra
監督:カーウェ・モディーリ
オランダ、ドイツ、デンマーク
©Jurje Rompa



『ライバル』
Rival
監督:マークス・レンツ
ドイツ、ウクライナ
©Mila Teshaieva



『この雨は止まない』
This Rain Will Never Stop
監督:アリーナ・ゴルロヴァ
ウクライナ、ラトビア、ドイツ、カタール
©Square Eyes Film



『野鳥観察員』
The Warden
監督:テレース・アナ
オランダ
©Mark de Blok

今年の「国際コンペティション」は、104の国・地域から、過去最多となる合計889本の応募があり、厳正なる一次審査を経て10作品をノミネートしました。

《マルタ、キュラソー作品が本映画祭初ノミネート》

17世紀から続いたオランダ植民地時代の歴史を持つカリブの島キュラソーを舞台に、島に息づく神秘的な伝統に惹かれていく少女の成長を描き、第93回米アカデミー賞国際長編映画賞のオランダ代表作品に選ばれたオランダ、キュラソー合作『ケンザの瞳』。

先祖代々受け継いできたマルタの伝統漁業を続けていくか、家族の生活を守るか、決断を迫られる男の逡巡を描き、今年のサンダンス映画祭ワールドシネマ・ドラマティック部門で俳優賞を受賞したマルタ映画『ルッツ』。

キュラソー、マルタ製作の映画は本映画祭でも初のノミネート。日本ではほとんど観ることのできない国や地域の作品をご覧いただける、国際映画祭ならではのセレクション!

《ドキュメンタリー、サスペンス、コメディ、社会派ドラマ……各国の新鋭監督たちがそれぞれの視点で見据えた世界の“いま”》

そのほかにも、移民や難民の人々を取り巻く社会問題に向き合った作品がある一方で、人生の選択や家族愛を描いた作品があり、各国の監督がそれぞれの視点で現代社会を見据えた力作が揃った今年の国際コンペティション。

シリア内戦の戦禍を避けてウクライナにやってきた青年が、赤十字で働きながら親族の暮らすクルディスタンを訪ねる旅を追ったドキュメンタリー『この雨は止まない』。

政情不安に揺れる80年代のイランで娘を失った母が、37年の時を経て娘を裏切り死に追いやった女性にオランダで再会し、復讐を企てるサスペンス『ミトラ』。

ほぼ半世紀にわたり、孤島でひとり野鳥観察の仕事をしてきた老人が、自分の仕事が突然無くなると知らされる戸惑いを描く、ささやかながらも壮大なヒューマンドラマ『野鳥観察員』。

ドイツで不法に働く母親を訪ね、ウクライナからやって来た9歳の少年が言葉も通じない国で孤独な闘いに追い込まれる姿に圧倒される社会派ドラマ『ライバル』。

ポリティカル・コレクトネス真っ青のきついスパイスを効かせた、ユダヤ人とドイツ人の同性カップルの結婚騒動コメディ『国境を越えてキスをして!』。

より良い人生を求めてアフリカから渡ってきた移民の男性が思いもしないアクシデントに見舞われてゆく様子を巧妙な仕掛けで描くサスペンス『シネマ・オブ・スリープ』。

アジア圏からは、「バッドパパ」のハジュン、「浪漫ドクター キム・サブ2」のソ・ジュヨン主演で、突然訪れた父の葬式とその費用の工面に奮闘する兄妹を描き、プジョン国際ファンタスティック映画祭 韓国ファンタスティック部門で作品賞を含む4冠に輝いた韓国映画『宴の日』。

自主制作・配給ながらユーロスペースほか全国公開された『老人ファーム』で長編デビューを果たした三野龍一監督が、加害者とその家族に対する社会の偏見、外国人労働者の劣悪な環境といった問題に真正面から挑んだ日本作品『鬼が笑う』がノミネート!

全作品 日本初上映!

ワールド・プレミア1作品 (『鬼が笑う』)

アジアン・プレミア4作品 (『シネマ・オブ・スリープ』『国境を越えてキスをして!』『ミトラ』『野鳥観察員』)

ジャパン・プレミア5作品 (『ケンザの瞳』『宴の日』『ルッツ』『ライバル』『この雨は止まない』)

《国際コンペティション審査委員長は俳優、映画監督の竹中直人》



©大石隼士

そして今年の国際コンペティション、審査委員長にはコメディアン、俳優として活動する一方で映画監督もこなすなど、マルチな才能が高く評価される竹中直人氏が着任!

その他の審査員は昨年、「Help! The 映画配給会社プロジェクト」の立ち上げにも携わった、世界中の良作を日本に紹介し続ける独立系配給会社の雄、株式会社ザジフィルムズ代表取締役の志村大祐氏、インディーのアートハウス作品のみを扱うハイ・コンセプトのワールドセールス会社、Alpha Violet で共同代表を務める船戸慶子氏、映画業界誌「Variety」でアジア映画評論家チーフを務めるマギー・リー氏の3名が務めます。ノミネート作品は以上の4名による最終審査を経て、10月3日(日)にグランプリをはじめ各賞を発表します。

映画の未来を担う新たな才能を発掘！

国内コンペティション（長編部門、短編部門）

長編6作品、短編8作品がノミネート

インド、フランス、カンボジアが舞台の作品や、本部門では初ノミネートの長編アニメーションなど、日本映画の新たな可能性を感じさせる意欲作！

《国内コンペティション 長編部門は全作品ワールド・プレミア！》

今年の国際コンペティション長編部門には6作品がノミネート！

本部門では初ノミネートとなる長編アニメーション『バトルクライ』。

2019年の本映画祭観客賞受賞作『おろかもん』などで女優としても活躍する猫目はち監督の『赫くなれば其れ』。

福岡を拠点に活動する萱野孝幸監督の、佐賀を舞台に展開する新感覚ロードムービー『夜を越える旅』。

虐待を受け、養育者とファミリーホームで暮らす少女たちの痛みと再生に向き合った澤佳一郎監督の『アリスの住人』。

望月葉子監督が自身の体験を基に、予定外の一人旅で訪れたインドで自分と向き合う内気な女性を描く『親子の河』。

ギリシャ神話を題材に、交差することのない一方的な愛情の苦悩を寓話的に綴る、羽納拓未監督の東京藝術大学映像研究科修了作品『Song for Laurel』。

今後の日本映画に新風を吹かすであろう、監督それぞれの個性が光る力作を厳選！全作品ワールド・プレミア！



『バトルクライ』
Battlecry
監督:谷中屋
日本
©2021battlecry



『赫くなれば其れ』
Double Red
監督:猫目 はち
日本
©Double_RED 2021 HACHI NEKOME FILM



『夜を越える旅』
Journey Beyond the Night
監督:萱野 孝幸
日本
©夜を越える旅フィルムパートナーズ



『アリスの住人』
Resident of Alice
監督:澤 佳一郎
日本
©2021 reclusivfactory



『親子の河』
The River: Flow of Life
監督:望月 葉子
日本、インド
© 2021「親子の河」



『Song for Laurel』
Song for Laurel
監督:羽納 拓未
日本
©2021 東京藝術大学大学院映像研究科

《国内コンペティション 短編部門はワールド・プレミア6作品、ジャパン・プレミア2作品》

短編部門には、例年以上にグローバルな拡がりを感じさせる8作品がノミネート！

東京とパリを拠点にする松井雅也監督が繊細に映し出す、パリの街角にいそうな男女3人が織りなす切ないラブストーリー『10センチの彼方』。

10月1日公開の『DIVOC-12』にも抜擢された齋藤栄美監督が台湾人女性と日本人女性の一夜の交流を描き、オーストラリアのプリズベン国際映画祭でワールド・プレミアされた『一夜二糸』。

篠崎誠監督の『あれから』(12)、『SHARING』(14) に脚本家として参加した酒井善三監督が、心理カウンセラーと患者の会話という限られたシチュエーションの中で観客の不安を掻き立てる心理ホラームービー『カウンセラー』。

是枝裕和監督や篠崎誠監督が指導に当たる早稲田大学基幹理工学部の映像制作実習で制作された、佐藤杏子監督と岡本香音監督による爽やかなイニシエーションストーリー『冷めるのを、待っている』。

台湾出身の江沅庭監督が「熊」と「人物のレンタル業」というユニークなモチーフで、ある家族の物語を軽やかに綴る『小山田喜久太郎』。

大阪アジア映画祭 JAPAN CUTS Award スペシャル・メンション受賞作『WHOLE』(19) の川添ビイラル監督がコロナ禍の都市部を舞台に、初老の警備員と孤独な会社員の物言わぬ交流を切り取る『ひびき』。

故人をVRで再生させるという近未来で、引きこもりの息子と急逝した母親の和解を描く村松健太監督『OKAN』。実在するカンボジアのサーカス学校と、そこで夢を追う少年たちに降りかかるコロナ禍の影響を物語に落とし込み、今年6月の上海国際映画祭でワールド・プレミアを飾った逢坂芳郎監督の『リトルサーカス』。

短編という限られた時間に濃縮された、若手監督の情熱がほとばしる選りすぐりのラインナップ！

『一夜二糸』『リトルサーカス』の2作品は本映画祭がジャパン・プレミア、その他の作品はワールド・プレミアとなります。



『10センチの彼方』
At (10) Centimeters Ahead
監督:松井 雅也
フランス、日本
© Masaya MATSUI



『一夜二糸』
One Night, Two Threads
監督:齋藤 栄美
日本
©KAJU FILMS



『カウンセラー』
Psychology Counselor
監督:酒井 善三
日本
©DrunkenBird 2020



『冷めるのを、待っている』
Until It Cools Down
監督:佐藤 杏子、岡本 香音
日本
©早稲田大学映像制作実習 2020



『小山田喜久太郎』
Kikutaro's Journey
監督:江 沅庭
日本



『ひびき』
Echoes from a Bridge
監督:川添 ビイラル
日本



『OKAN』
Mom
監督:村松 健太
日本
©釣部東京



『リトルサーカス』
A Little Circus
監督:逢坂 芳郎
日本、カンボジア
©Yoshiro Osaka

主催者、国際コンペティション・国内コンペティション審査委員長 コメント

○大野 元裕 (SKIPシティ国際映画祭実行委員会会長／埼玉県知事)

次の世代を担う新たな才能の発掘を目的とするこの映画祭も今年で18回目を迎えます。コロナ禍にあっても、映画祭の目的を果し映像産業の灯を絶やさないために、昨年に引き続き、今年もオンライン配信で開催することといたしました。今年は、104の国と地域から1,084本の作品が寄せられ、「国際映画祭」の名にふさわしく注目や期待を集めていることを嬉しく思います。海外に出掛けることがままならない状況の中、映画を通して「世界」に触れていただき、若手クリエイターの才能のきらめきを感じ取っていただければと思います。

○奥ノ木 信夫 (SKIPシティ国際映画祭実行委員会副会長／川口市長)

昨年初めての試みとなったオンライン配信では、全国で総視聴回数8,142回を記録し、今までご来場いただけなかったお客様にも、広く作品をご覧いただける機会となりました。コロナ禍の今だからこそ、ご自宅で、世界各国から厳選された映画の数々をお楽しみいただきたいと思います。また、今年の国際コンペティション部門の審査委員長は、俳優・映画監督として名高い竹中直人さんに務めていただきます。どの作品がグランプリに輝くのか、審査員の講評にもご注目いただきたいと思っています。

○竹中 直人 (国際コンペティション審査委員長／俳優、映画監督)

すっげえ！、なんだこれ！、怖い！、なんて感動的！、そんな素敵な映画が、いっぱい集まってくると思います。僕は心の奥底から、その日を楽しみにしております。皆さんに出会えること、最高の映画に出会えること、とてもとても楽しみです。

○國實 瑞恵 (国内コンペティション審査委員長／株式会社鈍牛倶楽部代表取締役、プロデューサー)

昨年に続き、今年もまたコロナ禍であります。映画祭が開催されることに、大変喜びを覚えます。厳しい条件の中での撮影で皆さん大変ご苦労なされたと思いますが、今年もまた素晴らしい作品に出会えることを楽しみにしています。

○土川 勉 (SKIPシティ国際Dシネマ映画祭ディレクター)

コロナの影響は今年に入り、現在も一向に収束する気配がありません。しかしだからと言って、私たちの映画祭は立ち止まることはできません。何故なら、どんな状況でも映画の新しい才能は止まることなく次々と誕生しているからです。普段、私たちが訪れることのない国や地域からの映画、そして国内外の様々なジャンルの映画をお届けいたしますので、皆様にはこれらの映画を十分堪能していただけると確信しております。

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2021 開催概要

- 会期：2021年9月25日(土)～10月3日(日) <9日間>
- 開催方式：オンライン配信 (配信サイト：シネマディスカバリーズ)
- 内容：国際コンペティション、国内コンペティション (長編部門、短編部門)
- 主催：埼玉県、川口市、SKIPシティ国際映画祭実行委員会、特定非営利活動法人さいたま映像ボランティアの会
- 公式サイト：www.skipcity-dcf.jp

【素材のご提供】

本映画祭ノミネート作品の画像素材、プレス資料などは、以下 URL よりダウンロード頂けます。
各作品の詳細は、プレス資料をご覧ください。

<https://drive.google.com/drive/folders/1eHjsDJNiWAvKBVYcOoyU4R3Tb75zsxot?usp=sharing>

【プレスパスのご案内】

期間中にノミネート作品をオンラインでご鑑賞いただけるプレスパスのお申込みを本日より開始いたしました。
以下 URL から使用方法・注意事項をご確認のうえぜひお申込みください。

<https://www.skipcity-dcf.jp/press/>

《お問合せ》 SKIP シティ国際Dシネマ映画祭事務局 広報：堀切

TEL: 048-263-0818 FAX: 048-262-5635 MOBILE: 090-4228-2342 E-Mail: horikiri@skipcity.com